

【新型コロナウイルスを持ち帰らないために】

新型コロナウイルスの厄介なところを確認しましょう。

①集団免疫が無いところに、①無症状のうちに他人に移し、②ワクチンもまだ不十分で特效薬も無く、また③重症になった肺炎には抗生物質が効かず、④最後の砦は人工心肺装置で受け入れ人数に限りがある。⑤入院待機患者も自宅で突然悪化する。しかし⑥多くは軽症で終わるので軽く考えている人がいる・・・

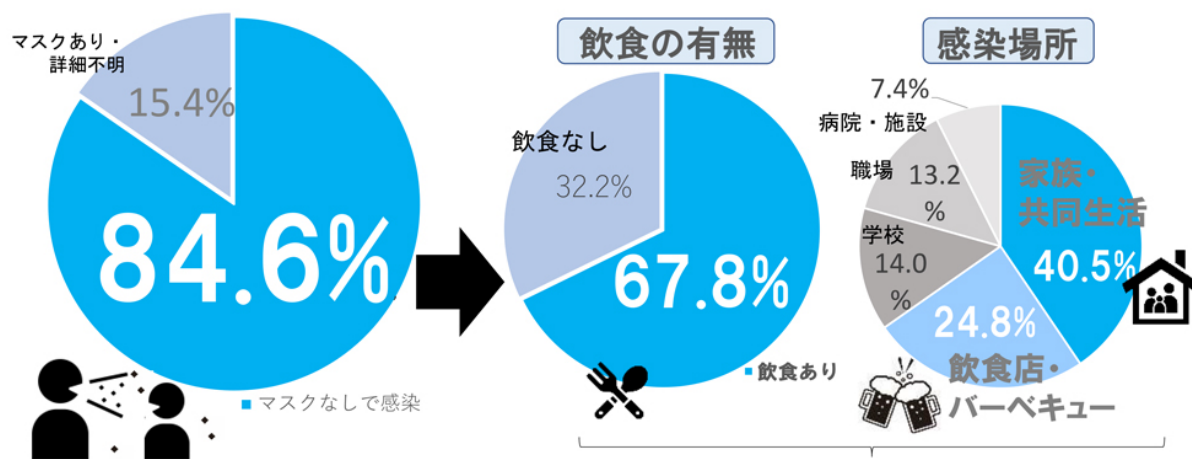
④、⑤を防ぐために慎重な行動とワクチンによる①の克服が必要なのです。そこを、ご丈夫な方も、わが身のこととは切り離してお考えいただきたいですね。

子どもから感染し、ご夫婦で重症化した事例がニュースで取り上げられていました。感染者が増え、重症者が定員を超えている状態だと、どちらを助けるか、家族は、あるいは医者、考えなければならなくなります。

気を付けるべき場面は「5つの場面」として、「**飲酒を伴う懇親会等・大人数や長時間におよぶ飲食・マスクなしでの会話・狭い空間での共同生活・居場所の切り替わり**」が挙げられています。3密を保ちにくいからです。

福井県では、濃厚接触者に加えて、接触可能性がある人にも幅広く PCR 検査を実施。その結果、2021 年 4 月の新型コロナウイルス感染症陽性者のうち 84.6%が「マスクなし」で感染、その内訳は、「飲食あり」が 67.8%で、マスクを外し、飲食をする場面の感染リスクが高いことが改めて明らかになっています。

約85%がマスクなしの会話



※ 4 月の陽性者 286 名のうち

マスクなし感染の内訳 (242 名、4 月)

(2021 年 5 月 26 日厚労省新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料)

飲食の場から持ち帰りさえしなければ、家族も職場も学校も問題にはならないはずです。政府が悪いわけでもなく、飲食店が悪いわけでもなく、一人一人の心掛けでしょう。自分の中で、ルールを作ることが大事なのではないでしょうか。

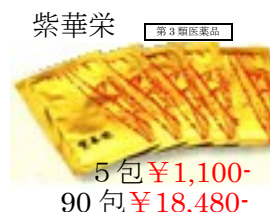
6 月 30 日の資料によると、現在、主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株が 4 つ、影響を与える可能性が示唆された株が 4 つあり、長引くことによる脅威が指摘されているところです。

【新型コロナウイルスのワクチン接種】

ワクチンはウイルスをやっつける武器ではありません！ そういう注射薬もあり、それは免疫グロブリンと呼ばれるものですが、ワクチンはそれとは違い、侵入した**ウイルスを判別するための「安全性を高めた情報」**でしかないのです。私たちの体は、その情報を基に迎え撃つ準備を整えます。非常に優れた仕組みを持っています。しかし、**問題はその人の生命力で、それが自然治癒力の一つ、「免疫力」の差を生みます。**

同じ条件で生活していながら、伝染病に罹る人と罹らない人がいます。疲れが溜まっている人、体力が衰えている人は、自然治癒力自体が低下する・・・これはご承知のとおりです。

だから、今こそ自然治癒力を高める滋養強壮薬が必要なのです。自然薬の「松寿仙(しょうじゅせん)」と「紫華栄(しかろん)」をおすすめします。



新型コロナウイルス感染症による肺炎は、風邪やインフルエンザ後に発症する細菌性肺炎とは異なり、原因に効く薬がなく、対症療法(管理が難しい)になります。これが違うから、感染者を増やさないように必死なのです。